

**平成 24 年度
鹿児島大学附属図書館
自己点検・評価報告書
(平成 21 年度～23 年度)**

平成 24 年 9 月

鹿児島大学附属図書館

目 次

附属図書館の概要	1
1 附属図書館の理念・使命	1
2 附属図書館の基本目標	1
附属図書館活動の点検と評価	2
1 教育領域	2
(1) 施設・設備及び学生支援	2
2 研究領域	8
(1) 研究実施体制	8
3 社会貢献領域	12
(1) 社会貢献の実施体制	12
(2) 社会貢献活動	16
4 管理運営領域	21
(1) 施設、設備	21
(2) 改善のためのシステム	29
(3) その他管理運営	32
総括・評価	33
1 教育領域の総合評価	33
2 研究領域の総合評価	33
3 社会貢献領域の総合評価	33
4 管理運営領域の総合評価	33
根拠資料(規則関係)	35
鹿兒島大学附属図書館情報リテラシー支援室設置要項	35
鹿兒島大学附属図書館学生モニター内規	36
鹿兒島大学リポジトリに関する要項	37
鹿兒島県学術共同リポジトリ運用指針	39
鹿兒島大学附属図書館展示スペース利用要項	41

附属図書館の概要

1 附属図書館の理念・使命

鹿児島大学附属図書館は、鹿児島大学の基本理念に基づき、高等教育と学術研究活動を支える重要な学術情報基盤としての役割を担う。また、鹿児島大学附属図書館の特色をいかした学術資料の収集と図書館サービスを行うため、次の使命をもつ。

1. 教育、研究および学習に関わる学術資料の収集、保存、組織化を行う。
2. 学生が、学術資料を利用して、自ら学習する環境を提供する。
3. 学生・教員及び一般市民が、学術資料を利用して教育・研究活動を行う環境を提供。
4. 学術資料・情報活用を主眼とした情報リテラシー教育を支援する。
5. 本学及び地域で生産される学術資料を収集・保存し、電子化して公開する。
6. 本学で所蔵する学術資料及び貴重資料の公開等を通じて、地域の文化振興に貢献。
7. 農学系外国雑誌センター館として関連資料の収集に努め、全国共同利用に寄与する。
8. 図書館サービス向上のため、他大学図書館等との相互協力を図る。

(鹿児島大学附属図書館概要 2012 : P. 3)

2 附属図書館の基本目標

附属図書館の基本理念・使命および鹿児島大学の中期目標・計画に沿って、閲覧中心型図書館から学習支援型図書館へ脱皮する。授業との連携を強め、専門家の目を通して収集・整理された良質な学術情報をベースに、他者とのコミュニケーションやディベートを媒介としたグループ学習を促進させ、知識の活用能力の向上に寄与する。また学術情報の発信・流通を促進させ、本学における戦略的テーマの推進とともに、地域における生涯学習、キャリアアップ学習を支援する体制を整える。

- 基本目標1： 学習支援機能の強化と学習環境の向上により教育における学術情報の有効活用を促進する。
- 基本目標2： 本学の戦略的研究テーマの推進をサポートするために、学術情報の効果的な収集・提供体制を強化する。
- 基本目標3： 本学で生み出された学術情報を積極的に発信するとともに鹿児島県における学術流通促進の拠点として整備する。
- 基本目標4： 業務内容・業務体制の見直しにより、利用者の利便性と快適性の向上を図り、効率的かつ透明性の高い運営に努める。

(鹿児島大学附属図書館概要2012 : P. 3)

附属図書館活動の点検と評価

鹿児島大学中期目標・中期計画のうち、附属図書館に該当する事項について、以下にその分析を行った。

1 教育領域

(1) 施設・設備及び学生支援に関する事項

教育に対応した施設・設備等が整備され有効に活用されていること。
学習、課外活動、生活や就職、経済面での援助等に関する相談・助言、支援が適切に行われていること。

「学士力」育成に必要な領域別図書(学術情報)等の収集

【現状】

本学の第2期中期計画「附属図書館等学内共同教育研究施設の学習支援機能の強化と環境整備を行う。」に基づいて、年度計画にある『整備計画に則り、「学士力」育成に必要な領域別図書(電子資料を含む多用な学術情報)等を収集し、利用促進を図る。』の実施に向けて取り組んでいる。

文部科学省中央教育審議会が纏めた平成20年12月24日付「学士課程教育の構築に向けて(答申)」の『各専攻分野を通じて培う「学士力」－学士課程共通の「学習効果」に関する参考指針－』で示された以下の4つの領域を養成する領域別図書を、学長裁量経費により平成22年度は169冊(2,000千円)、平成23年度は248冊(1,000千円)を収集整備し利用に供した。

(平成24年度も学長裁量経費3,000千円により、引き続き整備する予定である。)

<各専攻分野を通じて「学士力」を培う4領域>

1. 知識・理解領域

専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と事故の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。

- (1) 多文化・異文化に関する知識の理解
- (2) 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解

2. 汎用的技能領域

知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能

- (1) コミュニケーション・スキル
- (2) 数量的スキル
- (3) 情報リテラシー
- (4) 論理的思考力
- (5) 問題解決力

3. 態度・志向性領域
 - (1) 自己管理力
 - (2) チームワーク・リーダーシップ
 - (3) 倫理観
 - (4) 市民としての社会的責任
 - (5) 生涯学習力
4. 統合的な学習経験と創造的思考力領域
 これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれを適用し、その課題を解決する能力

【優れた点、特色ある点】

図書館職員が本学の理念及び教育目標、出版・新刊情報、読書傾向、書評、図書館団体の選定図書情報を把握し、各館の既存資料の状況及び予算を勘案して図書の選定・決定をしており、学生の学士力育成のために貢献している。

【改善を要する点、改善した点】

選定図書について各専攻分野に多少のバラツキがみられるため、蔵書構成を勘案しながらできるだけ平均的に選書するように改善する必要がある。

【根拠資料】

- 平成 22 年度学士力図書整備内訳
- 平成 23 年度学士力図書整備内訳

平成22年度学士力図書整備内訳				
領域区分(大区分)	小区分	各専攻分野を通じて培う学士力分類	冊数(冊)	金額(円)
知識・理解	1-1	多文化・異文化に関する知識の理解	0	0
知識・理解	1-2	人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	116	1,555,320
汎用的技能	2-1	コミュニケーションスキル	0	0
汎用的技能	2-2	数量的スキル	23	239,564
汎用的技能	2-3	情報リテラシー	8	91,140
汎用的技能	2-4	論理的思考力	0	0
汎用的技能	2-5	問題解決力	21	108,280
態度・志向性	3-1	自己管理力	0	0
態度・志向性	3-2	チームワーク、リーダーシップ	0	0
態度・志向性	3-3	倫理観	0	0
態度・志向性	3-4	市民としての社会的責任	1	5,696
態度・志向性	3-5	生涯学習力	0	0
統合的な学習経験と創造的思考力	4	統合的な学習経験と創造的思考力	0	0
計			169	2,000,000

平成23年度学士力図書整備内訳				
領域区分(大区分)	小区分	各専攻分野を通じて培う学士力分類	冊数(冊)	金額(円)
知識・理解	1-1	多文化・異文化に関する知識の理解	19	62,325
知識・理解	1-2	人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	148	583,020
汎用的技能	2-1	コミュニケーションスキル	8	18,168
汎用的技能	2-2	数量的スキル	33	232,435
汎用的技能	2-3	情報リテラシー	2	2,354
汎用的技能	2-4	論理的思考力	9	30,665
汎用的技能	2-5	問題解決力	2	2,892
態度・志向性	3-1	自己管理能力	2	10,673
態度・志向性	3-2	チームワーク、リーダーシップ	4	8,878
態度・志向性	3-3	倫理観	6	10,372
態度・志向性	3-4	市民としての社会的責任	11	28,960
態度・志向性	3-5	生涯学習力	2	3,932
統合的な学習経験と創造的思考力	4	統合的な学習経験と創造的思考力	2	5,326
計			248	1,000,000

図書館機能を使った情報リテラシー支援室の授業支援(教育センターとの連携)

【現状】

図書館情報リテラシー支援室が授業支援の一環として、平成17年度から設置されており、図書館職員が学生に対して蔵書検索などのWeb情報サービスの説明をするガイダンスを教員の依頼に応じて実施している。ガイダンスの受講者は平成21～23年度は年間1,800名余りで推移しており、そのうち80～90%が1年生であった。

【優れた点、特色ある点】

3年間の受講者数からみて、大部分の新生が図書館の実施する図書館情報リテラシー支援室のガイダンスを受けており、図書館と共通教育(教育センター)との授業支援の連携はかなり進んでいる。

【改善を要する点、改善した点】

当初は学術文献データベースの解説だけであったが、学生アンケートの意見などの結果(欲しい本が無いなど)を取り入れて、図書館の各種サービスをWeb上で受けることのできるMy Library(希望図書・貸出延長などのリクエストがWebからできる機能)についても説明をするように改善した。

【根拠資料】

- 鹿児島大学附属図書館概要 2012
(URL:<http://www.lib.kagoshima-u.ac.jp/magazine/outline/2012.html>)
図書館サービス P.7～P.8
- 情報リテラシー支援
- 鹿児島大学附属図書館情報リテラシー支援室設置要項(本文P.35)

情報リテラシー支援								
	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	回数(回)	人数(人)	回数	人数	回数	人数	回数	人数
中央図書館	104	2,799	129	3,432	78	3,060	66	2,607
桜ヶ丘分館	10	262	13	520	10	475	11	509
水産学部分館	2	20	1	6	0	0	0	0
合計	116	3,081	143	3,958	88	3,535	77	3,116

うち情報活用ガイダンス								
	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	回数(回)	人数(人)	回数	人数	回数	人数	回数	人数
中央図書館	53	1,860	58	1,827	57	1,759	53	1,737
桜ヶ丘分館	3	149	1	49	2	112	1	86
水産学部分館	0	0	1	6	0	0	0	0
合計	56	2,009	60	1,882	59	1,871	54	1,823

学習アドバイザー(ピアサポート)機能の強化

【現状】

平成22年度から、大学院生が学部生の学習相談を受け学習をサポートする「図書館ピアサポート」に取り組んでおり、水産学部分館(平成23年度後期実績)で生活や就職、学習方法等についての相談が合計14回あった。

【優れた点、特色ある点】

平成23年度には試験や学習方法、レポート作成等に関する学生からの相談に対して大学院生がアドバイスを行い、学習支援上の効果が得られた。

【改善を要する点、改善した点】

特に初年次学生等においてはピアサポートの需要はあると見られ、実施時間帯や頻度についても工夫し、今後は広報を強化しピアサポート制度として浸透させ、相談者を増やしていく必要がある。

また大学のピアサポートとのすみ分けや連携についても検討したい。

【根拠資料】

■平成23年度ピアサポート実績

平成23年度ピアサポート実績	
実施期間	平成23年12月2日～平成24年2月7日 (毎週月、木、金) 16:00～18:00
実施回数	36回
相談回数	14回

学生モニター制度

【現状】

平成19年度から実施している図書館学生モニター制度は、学生・大学院生から図書館に対する意見要望等を集約するための制度であり、中央図書館、桜ヶ丘分館、水産学部分館の利用者（学部・研究科の学生・大学院生）から生の声を聴き、その意見を基に、各図書館のサービス向上・改善に生かしている。

【優れた点、特色ある点】

毎年度開催される学生モニター懇談会では、図書館の環境や図書資料、利用者サービス、図書館の使い方、授業と図書館のかかわり等に関する意見と要望等を直接聴き取り、実現が可能なものについてはすぐに対応した。

【改善を要する点、改善した点】

学生モニター制度（学生・大学院生）の意見をもとに、活動報告をとりまとめ、改善した点を次年度最初の附属図書館運営委員会へ報告し図書館サービスの改善に努めている。

【根拠資料】

- 学生モニター懇談会実施状況
- 選書ツアー実施状況
- 鹿児島大学附属図書館学生モニター内規(本文 P. 36)

学生モニター懇談会実施状況(開催回数と参加者延べ人数を示した)

	中央図書館	桜ヶ丘分館	水産学部分館
平成21年度	2回 16名	2回 7名	2回 4名
平成22年度	1回 8名	1回 2名	1回 2名
平成23年度	2回 5名	1回 2名	1回 3名

選書ツアー実施状況(開催回数と購入冊数を示した)

	中央図書館 水産学部分館	桜ヶ丘分館
平成22年度	1回 45冊	1回 33冊
平成23年度	1回 39冊	1回 6冊

学習環境の向上(グループ学習室の増設、アメニティルームの新設等)

【現状】

図書館においては、自主的学習環境(グループ学習室、研究個室、パソコン端末室、情報リテラシー支援室、AVコーナー)が整備されており、開館中はいつでも利用することがで

きるなど多様な利用者ニーズに対応可能となっている。

中央図書館では平成 21 年度に利用者の多様な学習スタイルに対応するため、グループ学習室をこれまでの 3 室からさらに 12 室を増設し、併せて 2 階にアメニティルーム(ラーニングcommons&リラックススペース)、2 階～4 階に携帯電話用ボックスを設置した。また開架書架の狭隘化対策の一環として、地下 1 階、2 階の作業用書架を手動式集密書架に改修し、その一部を開架書架(約 2 万冊)として提供した。

桜ヶ丘分館では、平成 20 年度末に自動販売機をアメニティコーナー1 階に設置し、学習の合間にくつろぐためのスペースとした。平成 21 年度はこのアメニティコーナーを拡充するとともに携帯電話用ボックスを 2 箇所を設置した。

水産学部分館では、平成 20 年度末に視聴覚室をグループ学習ができるためのスペースに改装し、平成 21 年度以降も閲覧席を増設するなど、学習環境の向上を図った。

各館とも、個室やグループ学習室、専用エリアにおいて有線・無線 LAN により学内ネットワークやインターネットに接続できるような環境を整備した。

【優れた点、特色ある点】

アメニティルーム新設やグループ学習室の増設により、それらの利用者が増加し、学生の憩いの場としても活用されており、その結果、個人学習やグループ学習の学習効果を高める施設となっている。

【改善を要する点、改善した点】

アメニティルームやグループ学習室での飲食・場所取り等のルール・マナーの注意喚起等の利用指導の強化が必要である。また書庫の狭隘化に対する書庫改修・増設の経費要求とともに、図書資料の整理を進め、より多くの図書資料を提供できる学習環境の向上に取り組む必要がある。

【根拠資料】

■鹿児島大学附属図書館概要 2012

(URL:<http://www.lib.kagoshima-u.ac.jp/magazine/outline/2012.html>)

中央図書館案内 P. 15～P. 16、桜ヶ丘分館案内 P. 17、水産学部分館案内 P. 18

2 研究領域

(1) 研究実施体制等の整備に関する事項

研究が効率的に行えるよう研究施設・設備が整備されていること。

電子ジャーナル・文献データベース及びバックファイルの安定的利用環境の整備

【現状】

図書館では、教育研究の向上と進展を図るために電子ジャーナル及び文献データベースといった電子的資料を導入し、それらの整備を図ってきた。その結果、これらの電子的資料は、本学の教育研究にとって重要なツールとして認知され、学術情報の全学的な共同利用を促進してきている。しかし、これら電子ジャーナル等パッケージの年ごとの価格上昇に伴い経費の確保が極めて困難な状況である。

現在、全部局経費分担で導入中の電子ジャーナル(ScienceDirect, Wiley-Blackwell, Nature, Science, SpringerLink)及び文献データベース(Web of Science, LexisNexis, LEX/DB, GeNii, 医中誌 WEB)については、全学的な検討を繰り返し行ってきた結果、必要不可欠な学術情報基盤として高頻度で利用されていることが分かっている。

Wiley-Blackwell パッケージについては、やむを得ず平成 21 年度に中止したが、学内各所から強い復活要請があり平成 22 年度から再契約した経緯がある。

全部局経費分担の経費については、平成 19 年度附属図書館運営委員会で「総額は 1 億 2,000 万円を上限とする」ことが決定されているが、電子ジャーナル等はパッケージにもよるが、毎年 5~8%の値上がりが行われ、今後も同様の値上がりが見込まれ、平成 24 年度契約総額は約 1 億 2,410 万円となっている。

なお、現在の財源確保の枠組み(①図書館資料費、②利用率による部局負担、③教員一律負担、④間接経費等の 4 種による負担方式)については、全学的な学術情報の公平性・透明性を確保するために、平成 20 年度附属図書館運営委員会で決定された。また、平成 21 年度には、1 億 2,000 万円を超える電子ジャーナル経費については全学的(間接経費による)な補填を附属図書館運営委員会から要望し認められ、現在に至っている。

電子ジャーナル等のバックファイルの整備は毎年の電子ジャーナル・文献データベースの購入と同様に教育研究基盤の充実・強化のために必要不可欠なものであり、過去の研究成果を遡って利用できる研究及び教育上有用なものが多く、論文等の入手と利用を効率的に行うために、教員や大学院生等から導入の要望が寄せられており、他大学においても近年その整備に取り組んでいる。

平成 22 年度・23 年度の変更予算においては、これらバックファイルの整備が認められ、ScienceDirect(利用頻度の高い 17 分野)、SpringerLink(2,680 タイトル)、Web of Science のバックファイル(自然科学・社会科学・人文学の 10 年分)を購入し利用可能とすることができた。

【優れた点、特色ある点】

電子ジャーナル及び文献データベースの整備について、平成 21 年度に財政的事情から一度中止した Wiley-Blackwell の再契約を実現し、安定的な契約及び導入を確保するために、当面の間、総額 1 億 2,000 万円を超える場合には全学的措置（間接経費による補填）での財源確保対策を講じ、利用環境の向上・維持に取り組んでいる。

また、平成 22 年度・23 年度にバックファイルの整備を行い、大学の教育研究の学術情報基盤強化に寄与している。

【改善を要する点、改善した点】

電子ジャーナル・文献データベース及びバックファイルの整備は、大学の学術情報基盤として特に重要であるが、毎年の価格上昇に伴い、大学予算が削減される中、現在の契約規模を維持しつつ経費を確保するのが重要な課題であり、より一層の学内的な働きかけとともに全学的な対応が必要である。

また、現在の全部局経費分担の財源確保の枠組みでは、新規導入には対応できないため更なる検討が必要である。

【根拠資料】

■鹿児島大学附属図書館概要 2012

(URL:<http://www.lib.kagoshima-u.ac.jp/magazine/outline/2012.html>)

電子図書館への取り組み（学術ポータル）P.21

■電子ジャーナル導入状況

電子ジャーナル導入状況					
購入パッケージ					
年度/EJ	ScienceDirect	Wiley-Blackwell	Nature	Science	SpringerLink
20		()			
21		x			
22					
23					
20年度は、Wiley-Blackwell 合併前であり、Wiley Interscience と Blackwell Synergy 両社の電子ジャーナルパッケージを購読していた。					
種類数					
年度	有料誌数		無料誌数	計	
20	4,980		3,646	8,626	
21	3,889		4,488	8,377	
22	5,214		5,407	10,621	
23	5,229		6,979	12,208	

研究活動への支援体制整備（教員インタビュー等）

【現状】

平成 22 年度は学生の教育を担う 9 名の教員に対して教員インタビューを行い、研究現場が持つ図書館に対するニーズの掘り起こしを行った。平成 23 年度は鹿児島大学が取り組んでいる教育研究プロジェクト事業（三つのテーマ：島嶼、環境、食と健康）を担っている研究者 9 名に研究スタイルや文献収集行動についてのインタビューを行い、研究活動における図書館に対するニーズや要望の把握を行った。

【優れた点、特色ある点】

本学教育研究プロジェクト事業テーマの研究者に対して直接インタビューをすることで、研究活動に対する理解が深まり、ニーズの把握やサービスの有効性についての確認ができる。また有用なサービス提供を考える足掛かりともなり、直接的な研究活動支援につながる。

【改善を要する点、改善した点】

情報収集行動の把握ができたことで、それをもとに今後、有用なサービスの提供を検討していく必要がある。

【根拠資料】

なし

外国雑誌センター館での収集・整備状況

【現状】

外国雑誌センター館（以下センター館）は昭和 52(1977)年に、当時の文部省が国立大学に自然科学系外国雑誌の予算を措置し、医学・生物系、理工学系、農学系の 3 分野において共同利用の要件を備えた拠点大学図書館を指定して配分されたことに始まり、現在、医学・生物学系は東北大学・大阪大学・九州大学、理工学系は東京工業大学・京都大学、人文社会科学系は一橋大学・神戸大学、農学系は東京大学・鹿児島大学の 4 分野 9 館が活動している。

センター館は、当初から、国内で欠落している外国雑誌の体系的・網羅的な収集・提供を目的として、国内所蔵が 3 館以下のいわゆるレア・ジャーナルを収集対象としており、その中で鹿児島大学附属図書館は主にアジア諸国の農学系を収集する責務を負っている。

本学の契約誌数は、雑誌到着率が 86%程度という現状で購入中止せざるを得ない雑誌が出てきており、平成 21 年度 456 誌、平成 22 年度 412 誌、平成 23 年度 408 誌と減少している。

センター館全体の最新データによると平成 22 年度のセンター館誌 7,458 誌中で、電子ジャーナルのみを契約しているものは 109 誌(1.5%)、冊子体+電子ジャーナルで契約しているものは 869 誌(11.7%)となっており、冊子体にこだわらず、電子ジャーナルを含めて各分野におけるセンター館の特色にあった資料の収集・提供についての検討を行い、平成 24 年 7 月に「外国雑誌センター館資料収集方針」を改正した。

【優れた点、特色ある点】

センター館雑誌全体のレア・ジャーナルの占める割合は 95%以上と所蔵雑誌のほぼすべてがレア・ジャーナルとなっている。その中でセンター館のみ所蔵の雑誌（所蔵館数 1 館）は 70%をこえていることからセンター館としての主な役割の国内未収集の外国雑誌の収集・整理において十分な成果を果たしている。

【改善を要する点、改善した点】

今後のセンター館の新たな役割を現在模索しているところであり、収集誌の形態に関しても電子ジャーナルが増加することが考えられるため、センター館全体としての収集形態等の再考察が必要と思われる。

また、農学系における収集方針を東京大学と策定する必要がある。

【根拠資料】

■外国雑誌センター館ホームページ

(URL:http://www.janul.jp/ncop/)



(出典 外国雑誌センター館ホームページ)

3 社会貢献領域

(1) 社会貢献の実施体制に関すること

大学の学術・技術・知識等々が、社会に有効に活用されるシステムが整備されていること。

研究成果等が速やかに社会に公開されるシステムが整備されていること。

「鹿児島大学リポジトリに関する要項」制定による学術研究成果物の管理・公開体制の再構築

【現状】

平成 19 年度に鹿児島大学リポジトリを公開し、当初の C S I 委託事業費(国立情報学研究所)による一括登録後の平成 21 年度は、登録件数が伸び悩んでいる状況であった。

平成 22 年度前半はリポジトリ登録促進対策タスクフォースで、鹿児島大学リポジトリの登録、コンテンツ登録推進のための調査・検討を行い、実効性のある規則を制定し、学内成果生産物のルーチン的な収集・登録・公開を行っていくこととなった。平成 22 年度後半では、学内の研究成果等を原則として機関リポジトリへ登録するための「鹿児島大学機関リポジトリに関する要項」を策定し、機関リポジトリ専門委員会で承認された。また、「鹿児島大学機関リポジトリに関する要項」中でルーチン的に収集することとした博士学位論文については、国立国会図書館と共同でデジタル化実施に係る著作権事業に参加し、1991 年～2000 年までの鹿大博士論文の著作権許諾済み論文のデジタル化を行い、鹿大リポジトリでも公開した。

平成 23 年度は、機関リポジトリ専門委員会で承認を受けた「鹿児島大学リポジトリに関する要項」を 7 月に学長裁定として制定した。これにより、コンテンツ収集・登録・公開の推進体制が整えられた。

【優れた点、特色ある点】

特に、博士論文の学位申請者に対する成果物の提出方法等を明文化し、すべての学位論文を収集する体制を整備した。

【改善を要する点、改善した点】

紀要、学内機関発行の報告書、科学研究費研究成果報告書については発行後もしくは集約後に提出するものとして、事務的に収集し、登録・公開する体制へと改善した。

今後は、さらに、関連部署等の担当者と協議しながら円滑な登録処理のための実効性のある体制構築を進めていく必要がある。

【根拠資料】

■鹿児島大学附属図書館概要 2012

(URL:<http://www.lib.kagoshima-u.ac.jp/magazine/outline/2012.html>)

電子図書館への取り組み（鹿児島大学リポジトリ）P.23

■鹿児島大学リポジトリ登録・利用状況

■鹿児島大学リポジトリに関する要項(本文 P.37)

鹿児島大学リポジトリ登録・利用状況

資料種別	平成21年度			平成22年度			平成23年度		
	コンテンツ数 (累計)	アクセス件数 (期間中の件数)	ダウンロード件数 (期間中の件数)	コンテンツ数 (累計)	アクセス件数 (期間中の件数)	ダウンロード件数 (期間中の件数)	コンテンツ数 (累計)	アクセス件数 (期間中の件数)	ダウンロード件数 (期間中の件数)
雑誌論文	98	7,799	6,808	164	5,136	6,147	172	5,060	6,044
紀要論文	4,976	193,756	244,931	5,780	99,815	345,418	6,369	93,637	153,661
会議発表論文	13	1,114	700	15	240	366	15	210	201
博士論文	53	5,977	16,581	58	2,236	14,327	143	2,389	15,475
修士論文	0	0	0	3	77	29	6	269	186
科研費報告	4	456	3,841	5	267	2,382	112	1,931	5,711
研究報告	0	0	0	0	0	0	1	95	1,476
講義資料	3	341	772	3	113	537	4	199	963
その他	3	347	143	3	145	32	7	441	346
計	5,150	209,790	273,776	6,031	108,029	369,238	6,829	104,231	184,063

鹿児島県学術共同リポジトリ(KARN)の構築

【現状】

平成21年5月に行われた鹿児島県大学図書館協議会（以下、県大図協）総会で鹿児島県内における学術情報の流通を促進するための地域共同リポジトリを立ち上げる件について協議し、平成22年5月の県大図協総会において、大学地域コンソーシアム鹿児島へ地域共同リポジトリの立ち上げを提案することが承認された。

平成22年11月、鹿児島県学術共同リポジトリサーバの鹿児島大学学長裁量経費の導入が決定され、平成22年12月、大学地域コンソーシアム鹿児島の運営委員会で鹿児島県大学共同リポジトリについての提案書を説明し、コンソーシアムの事業として立ち上げることが承認された。

平成23年2月、大学地域コンソーシアム鹿児島の代表者会議で平成23年度からのリポジトリ事業部会の設置が承認され、平成23年6月には、大学地域コンソーシアム鹿児島地域共同リポジトリ事業部会(参加大学等7機関)が発足した。

平成23年8月～9月に事業部会でリポジトリ運用指針、名称、英語名称、愛称を決定した。8月以降、参加館のリポジトリ担当者に対して鹿児島大学附属図書館で登録、著作権処理等に関する3回の研修会を実施し、11月には共同リポジトリ先行機関の広島大学、福井

大学より講師を招いて講演会を開催し、先行館のノウハウを学んだ。

システムのカスタマイズ、コンテンツ登録作業を終えて、平成 24 年 3 月 22 日に正式公開した。当日には、報道機関向けの共同リポジトリ概要の説明会も開催し、翌日南日本新聞に記事が掲載された。

【優れた点、特色ある点】

この鹿児島県学術共同リポジトリ (KARN) は、鹿児島県の地域社会発展の学術的データベースとしての側面も持っている。これを利用することで今後県内の組織横断的共同プロジェクトなども組みやすくなり、また、各種学術・文化活動の活性化にもつながる。

【改善を要する点、改善した点】

参加大学の学術情報が日本・世界に向けて発信されるようになった。登録論文が、日本最大の論文データベースである CiNii やグーグル等からも検索されるようになり、参加大学の知的成果物が活用され、今後各大学に対する理解が深まることも期待される。

今後は、コンテンツの登録件数をいかに増やしていくかが課題となる。

また、県内の大学・高専以外の学術機関のコンテンツ登録についても検討していく必要がある。

【根拠資料】

■鹿児島大学附属図書館概要 2012

(URL:<http://www.lib.kagoshima-u.ac.jp/magazine/outline/2012.html>)

電子図書館への取り組み P. 20

■鹿児島県学術共同リポジトリホームページ

(URL : <http://karn.lib.kagoshima-u.ac.jp/>)

■鹿児島大学ホームページトピックス (2012. 03. 28)

(URL:<http://www.kagoshima-u.ac.jp/topics/2012/03/post-222.html>)

■鹿児島県学術共同リポジトリ運用指針(本文 P. 39)



(出典 鹿児島県学術共同リポジトリホームページ)



(出典 鹿児島大学ホームページトピックス 2012.03.28)

(2) 社会貢献活動の内容に関すること

地域社会の要望に応えた公開講座、公開授業、講演会、イベント等が定期的に開催されていること。

社会貢献活動の内容が社会に公表されていること。

貴重書公開事業

【現状】

現在、鹿児島大学附属図書館では、大学外の市民に対して利用開放を行うほか、通常、一般向けには非公開である貴重書についても接する機会を設けるよう努めている。

図書館で所蔵する島津家関連の書籍コレクションである玉里文庫は、鹿児島の文化遺産として価値の高い資料であり、公開する意義が大きいことから、平成11年度より毎年、附属図書館を会場として、展示会および記念講演会を実施している。

また、平成12年度からは大学内だけでなく、県内各地でも展示会と記念講演会を実施してきた。平成21年度からは資料館等との共同企画展としても開催し、さらなる充実した貴重書公開展を実施している。

平成21年度

- ・鹿児島大学附属図書館・鹿児島県歴史資料センター黎明館合同企画展
- ・タイトル：薩摩藩「玉里邸」とその文化
- ・期間：平成22年2月16日-5月9日、場所：鹿児島県歴史資料センター黎明館
- ・講演会及び展示資料解説：平成22年3月6日、4月17日
「玉里島津家の人々と玉里島津家資料」 新福大健（黎明館学芸専門員）
「玉里島津家の近代-『島津田鶴子日記』より-」 丹羽謙治（鹿児島大学法文学部教授）
- ・入場者数 展示会（黎明館）5,150名、講演会 230名

平成22年度

- ・鹿児島大学附属図書館・南さつま市坊津歴史資料センター輝津館合同企画展
- ・タイトル：海を駆ける -東アジア世界の海域交流、その光と陰<薩摩、琉球、明・清>-
- ・期間：平成22年11月6日-28日（南さつま市坊津歴史資料センター輝津館）
平成22年12月3日-19日（鹿児島大学附属図書館）
- ・講演会及び展示資料解説：平成22年12月5日（鹿児島大学附属図書館）
「モノから見た薩摩・坊津の対外交流史 -貿易陶磁を中心に-」 橋口亘（輝津館学芸員）
「東アジア世界の海域交流」 徳永和喜（黎明館学芸課長）
- ・シンポジウム：平成22年12月5日（鹿児島大学附属図書館）
コーディネータ：日隈正守（教育学部教授）
パネリスト：橋口亘、徳永和喜、高津孝（鹿児島大学法文学部教授）、
安藤保（鹿児島大学名誉教授）
- ・入場者数：輝津館（442名）、附属図書館（221名）、合計663名

- ・講演会&シンポジウム参加者数 59名
- 平成 23 年度
- ・鹿児島大学附属図書館貴重書公開
 - ・タイトル：明治の浮世絵師と西南戦争
 - ・期間：平成 23 年 11 月 19 日-12 月 4 日
 - ・展示資料解説：30 名
 - ・講演会：平成 23 年 11 月 27 日（鹿児島大学附属図書館）
「躍動する英傑たち—西南戦争錦絵の魅力—」山西健夫（鹿児島市立美術館学芸係長・主幹）
「城下土坂本父子の西南戦争」塩満郁夫（志学館大学非常勤講師）
 - ・入場者数：404 名、講演会参加者数（35 名）、展示作品解説参加者数（30 名）

【優れた点、特色ある点】

黎明館、輝津館等の歴史資料館と合同企画展を開催し、質的・量的にも充実した展示会を開催することができ、多くの入場者があった。

平成 22 年度は初めてシンポジウムを開催し、充実した内容で好評であった。

毎年、教員による解説図録を作成し、好評である。図録は、そのまま玉里文庫の解説本としても集積されている。また、図録解題データベースとしてインターネット上でも公開している（URL：<http://reo.lib.kagoshima-u.ac.jp/~kicho/>）。

【改善を要する点、改善した点】

平成 21 年度から教員による展示作品解説を始めたが、専門的な説明に加え、質問等もできるため、好評であった。

広報については、さらなる工夫が必要となる。

【根拠資料】

■鹿児島大学附属図書館概要 2012

(URL:<http://www.lib.kagoshima-u.ac.jp/magazine/outline/2012.html>)

電子図書館への取り組み(貴重書資料の電子化事業)P. 22、貴重書公開事業 P. 24～P. 26

■鹿児島大学ホームページトピックス (2011. 12. 13)

(URL:<http://www.kagoshima-u.ac.jp/topics/2011/12/post-181.html>)



(出典 鹿児島大学ホームページトピックス 2011.12.13)

ギャラリー「アトリウム」での情報発信

【現状】

平成20年度末に大型の移動式パネルと照明を導入したギャラリーアトリウムでは、学生、教員の文化的及び学術的な作品の発表の場として利用されている（学友会の写真展、絵画展などの活動内容や成果の発表、研究者の彫塑や絵画展等、研究成果の発表の場として、また図書館所蔵の貴重書展の会場）。平成21年度には、利用手続きや利用期間等を定めた「鹿児島大学附属図書館展示スペース利用要項」を制定して、アトリウムの円滑な運用を行っている。

【優れた点、特色ある点】

図書館内に芸術的、文化的環境を作り出し、利用者にとっても、感性や知的創造活動を刺激する格好の場となっている。

【改善を要する点、改善した点】

図書館ホームページ上でイベント期間や詳細が見られるようにした。イベント開催時に

は、学外への広報、情報発信を行い、地域との交流の場としてさらに貢献していく必要がある。

【根拠資料】

- ギャラリーアトリウム利用回数実績
- 鹿児島大学附属図書館展示スペース利用要項(本文 P. 41)

ギャラリーアトリウム利用回数実績			
	平成21年度	平成22年度	平成23年度
利用回数	4回	11回	8回

鹿児島県大学図書館協議会との協働

【現状】

鹿児島県内の大学図書館及び工業高等専門学校図書館で構成する鹿児島県大学図書館協議会(加盟館 11 館)において、講演会・研修会及び広報等を連携・協力して行っており、協議会内の研修委員会で毎年、研修会・講演会を企画実施し、鹿児島大学附属図書館も参加協力している。平成 21 年 12 月には鹿児島大学附属図書館が企画提案館となり他大学と協力して、協議会主催の「授業で図書館を使いこなす！ー大阪市立大学での事例ー」の講演会を開催し、図書館関係者のみならず教員にも参加してもらい意見交換を行った。

また平成 23 年度代表館でもある鹿児島大学附属図書館が、平成 23 年 12 月に「図書館での学生力活用について」と題した事例発表による研修会と、「千葉大学アカデミック・リンクの取り組みー教育・学習支援機能を担うティーチング・ハブを中心にー」の講演会を開催し、今後の図書館の取り組みについて討論する機会となった。

平成 21 年 5 月に行われた総会において、地域共同リポジトリの立ち上げについて協議し、翌年 5 月の総会で大学地域コンソーシアム鹿児島へ地域共同リポジトリ立ち上げを提案することを決定した。平成 23 年 2 月に各加盟館からの合意による提案書により大学地域コンソーシアム鹿児島地域共同リポジトリ事業部会の設置が承認され、平成 24 年 3 月に鹿児島県学術共同リポジトリ(参加大学等 7 機関)(愛称 KARN)が正式公開された。これにより各機関の論文・紀要等の学術的生産物を、インターネットを使い広く社会に無料で公開・発信できるようになり、協議会内の広報委員会においても、協議会ホームページに鹿児島県学術共同リポジトリ(KARN)ホームページのリンク及び協議会リーフレットに鹿児島県学術共同リポジトリ(KARN)の簡易説明と URL を掲載し、社会に公表している。

【優れた点、特色ある点】

鹿児島県大学図書館協議会と協働して毎年、研修会・講演会に開催・参加しており、社会貢献活動に着実に取り組んでいる。また鹿児島県学術共同リポジトリ(KARN)についても構築から鹿児島県図書館協議会と連携して作業を進め、平成 24 年 3 月に正式公開され、社会貢献活動内容が社会に広く公表されている。

【改善を要する点、改善した点】

鹿児島県大学図書館協議会と協働して毎年、研修会・講演会に開催・参加しているが、聴講者が必ずしも多いとは言えず、より効果的な企画・広報活動に取り組む必要がある。

【根拠資料】

■鹿児島県大学図書館協議会ホームページ

(URL: <http://www2.synapse.ne.jp/kdtk/>)

■鹿児島大学ホームページトピックス (2011. 12. 26)

(URL: <http://www.kagoshima-u.ac.jp/topics/2011/12/post-188.html>)



(出典 鹿児島県大学図書館協議会ホームページ)



(出典 鹿児島大学ホームページトピックス 2011. 12. 26)

4 管理運営領域

(1) 施設、設備に関する事項

教育研究組織及び教育課程に応じて、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備されていること。

図書資料の収集(年間受入図書数、年間受入雑誌数、蔵書数等)

【現状】

第二期中期目標計画期間における附属図書館の基本目標である「学習支援機能の強化と学習環境の向上により教育における学術情報の有効活用を促進する」ことと、「本学の戦略的研究テーマの推進をサポートするために、学術情報の効果的な収集・提供体制を強化する」ことをもとに教育・研究用図書等を整備している。

収集図書資料等として次の購入冊数があげられる。

1. 年間受入図書数(購入分)

平成 21 年度	和漢書	7,938 冊	洋書	746 冊	計 8,684 冊
平成 22 年度	和漢書	7,989 冊	洋書	847 冊	計 8,836 冊
平成 23 年度	和漢書	7,238 冊	洋書	813 冊	計 8,051 冊

2. 年間受入雑誌種数(購入分)

平成 21 年度	和雑誌	1,776 冊	洋雑誌	1,214 冊	計 2,990 冊
平成 22 年度	和雑誌	1,709 冊	洋雑誌	1,080 冊	計 2,789 冊
平成 23 年度	和雑誌	1,610 冊	洋雑誌	1,014 冊	計 2,624 冊

3. 図書蔵書数(分類別)(平成 24 年 4 月 1 日現在)

総記	和漢書	68,782 冊	洋書	16,281 冊	計 85,063 冊
哲学	和漢書	44,266 冊	洋書	18,712 冊	計 62,978 冊
歴史	和漢書	79,286 冊	洋書	17,121 冊	計 96,407 冊
社会科学	和漢書	216,398 冊	洋書	53,959 冊	計 270,357 冊
自然科学	和漢書	213,429 冊	洋書	167,814 冊	計 381,243 冊
技術	和漢書	78,224 冊	洋書	21,549 冊	計 99,773 冊
産業	和漢書	65,459 冊	洋書	23,864 冊	計 89,323 冊
芸術	和漢書	30,907 冊	洋書	5,101 冊	計 36,008 冊
言語	和漢書	29,615 冊	洋書	13,976 冊	計 43,591 冊
文学	和漢書	71,386 冊	洋書	32,999 冊	計 104,385 冊
合計	和漢書	897,752 冊	洋書	371,376 冊	合計 1,269,128 冊

上記教育研究用図書を「鹿児島大学附属図書館資料の収集及び選定に関する実務要項」に基づき以下の資料区分により、それぞれ収集及び選定手続きを設け教育・研究・学習用に有効利用している。

(1) シラバス参考図書

シラバスに掲載され、授業で使用されるテキスト及び授業を補完する参考図書で、原則として掲載分は全て収集し、新たにシラバスに掲載された資料も可能な限り最新版を収集している。選定については、情報管理課長の指名する図書館職員が各学部等のシラバスデータと各館の既存資料の状況をチェックし整備している。

(2) 部局選定学生用図書

共通教育及び専門教育を担う部局が、学生に対する教育及び一般的教養の涵養等に資するために体系的に図書館に整備すべき資料で、授業内容に関連が深く、学生の自主的学習及び一般的教養の涵養に資するものを収集している。選定については、各部局から優先順位の高い順に選定・推薦されたものを情報管理課長が指名する図書館職員が、各館の既存資料の状況をチェックし整備している。

(3) 教員推薦学生用図書

各教員が、学生に対する教育及び一般的教養の涵養等に資するために推薦する図書で、学生の自主的な学習及び一般的教養の涵養に資する資料や留学生の学習・研究や生活に役立つ資料(日本語学習や日本の文化・社会事情に関する資料、教育関係の各国語資料等)を収集している。選定については、本学の教員(授業・実験の補助に従事する技術職員を含む)から推薦されたものを情報管理課長が指名する図書館職員が、各館の既存資料の状況をチェックし整備している。

(4) 高度専門教育・研究用図書

主に各部局から高度な専門教育及び研究に使用するために推薦された図書で、教員が自ら研究等に使用するために選定する資料、または各部局が高度な専門教育及び研究に使用するため、本学が掲げる理念及び目標に合致した資料を収集している。選定については、本学の予算において当該教員に配分された教育研究費により研究等に使用するために選定した資料については、当該教員が決定し、部局が図書館に推薦した資料については、予算等を勘案して、附属図書館運営委員会が決定し整備している。

(5) 学生希望図書

本学に所属する学生及び大学院生が自主的な学習・研究に使用するために選定希望する図書で、本学の学生が学習し、また自ら教養を高めるために購入を希望する資料を収集している。選定については、学生が購入を希望した資料を、情報管理課長の指名する図書館職員が、各館の既存資料の状況をチェックし整備している。

(6) 図書館職員選定図書

図書館職員が学生用図書全般・参考図書等の専門的知識に基づいて、本学の学生が学習若しくは研究、または教養の向上を図るための資料、留学生の学習・研究や生活に役立つ資料(日本語学習や日本の文化・社会事情に関する資料、教育関係の各国語資料等)、進路(就職、資格取得、進学等)に関する資料、参考資料(百科事典、各専門分野の事典、各国語辞書等)、郷土・地方資料(鹿児島県及びその周辺地域に関わる郷土関係資料)及び鹿児島大学に関する資料を収集している。選定については、情報管理課長の指名する図書館職員が本学の理念及び教育目標、出版・新刊情報、読書傾向、書評、図書館団体の選定図書情報等を把握し、各館の既存資料の状況をチェックし整備している。

【優れた点、特色ある点】

学生希望図書は、学生希望図書申込からのみでなく、実際に書店に赴き実物を手にとりて選書する「学生選書ツアー」を企画し、年1～2回程度実施している。

【改善を要する点、改善した点】

学生希望図書・教員推薦学生用図書は、希望する学生や推薦する教員が固定化されている状況があるので、ホームページやカウンターで周知している広報手段を再考し、より多くの学生・教員が参加できるように取り組む必要がある。

また、「学生選書ツアー」は、現在、学生モニターのみの参加で企画されているが、今後は図書館を利用する多くの学生に対して参加を募り、幅広くよりよい選書を行う予定である。

【根拠資料】

■鹿児島大学附属図書館概要 2012

(URL:<http://www.lib.kagoshima-u.ac.jp/magazine/outline/2012.html>)

図書資料の収集 P.9～P.10

■受入図書数 ■受入雑誌数 ■配架場所別蔵書数

受入図書数		(冊)											
配架場所		購入(和漢書)				購入(洋書)				購入(計)			
		20年度	21年度	22年度	23年度	20年度	21年度	22年度	23年度	20年度	21年度	22年度	23年度
中央図書館	図書館配架	2,979	4,954	2,599	3,412	346	324	108	378	3,325	5,278	2,707	3,790
	研究用貸出	1,289	1,652	3,311	1,802	272	294	552	229	1,561	1,946	3,863	2,031
	計	4,268	6,606	5,910	5,214	618	618	660	607	4,886	7,224	6,570	5,821
桜ヶ丘分館	図書館配架	965	944	1,107	1,333	51	43	91	64	1,016	987	1,198	1,397
	研究用貸出	140	74	400	175	55	46	55	71	195	120	455	246
	計	1,105	1,018	1,507	1,508	106	89	146	135	1,211	1,107	1,653	1,643
水産学部分館	図書館配架	207	307	568	512	52	32	37	67	259	339	605	579
	研究用貸出	4	7	4	4	1	7	4	4	5	14	8	8
	計	211	314	572	516	53	39	41	71	264	353	613	587
計	図書館配架	4,151	6,205	4,274	5,257	449	399	236	509	4,600	6,604	4,510	5,766
	研究用貸出	1,433	1,733	3,715	1,981	328	347	611	304	1,761	2,080	4,326	2,285
	計	5,584	7,938	7,989	7,238	777	746	847	813	6,361	8,684	8,836	8,051

配架場所		寄贈(和漢書)				寄贈(洋書)				寄贈(計)			
		20年度	21年度	22年度	23年度	20年度	21年度	22年度	23年度	20年度	21年度	22年度	23年度
中央図書館	図書館配架	2,427	2,007	1,500	1,168	399	208	174	127	2,826	2,215	1,674	1,295
	研究用貸出	28	7	41	635	14	8	29	311	42	15	70	946
	計	2,455	2,014	1,541	1,803	413	216	203	438	2,868	2,230	1,744	2,241
桜ヶ丘分館	図書館配架	57	50	49	46	6	1	26	5	63	51	75	51
	研究用貸出	0	0	22	6	1	0	1	1	1	0	23	7
	計	57	50	71	52	7	1	27	6	64	51	98	58
水産学部分館	図書館配架	84	165	73	119	33	41	36	6	117	206	109	125
	研究用貸出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	84	165	73	119	33	41	36	6	117	206	109	125
計	図書館配架	2,568	2,222	1,622	1,333	438	250	236	138	3,006	2,472	1,858	1,471
	研究用貸出	28	7	63	641	15	8	30	312	43	15	93	953
	計	2,596	2,229	1,685	1,974	453	258	266	450	3,049	2,487	1,951	2,424

配架場所		製本(和漢書)				製本(洋書)				製本(計)			
		20年度	21年度	22年度	23年度	20年度	21年度	22年度	23年度	20年度	21年度	22年度	23年度
中央図書館	図書館配架	51	45	44	48	161	1,059	221	257	212	1,104	265	305
	研究用貸出	9	10	24	10	28	2	3	0	37	12	27	10
	計	60	55	68	58	189	1,061	224	257	249	1,116	292	315
桜ヶ丘分館	図書館配架	127	112	304	81	486	459	557	359	613	571	861	440
	研究用貸出	210	222	86	159	349	169	225	152	559	391	311	311
	計	337	334	390	240	835	628	782	511	1,172	962	1,172	751
水産学部分館	図書館配架	400	225	191	155	225	110	45	42	625	335	236	197
	研究用貸出	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
	計	402	225	191	155	225	110	45	42	627	335	236	197
計	図書館配架	578	382	539	284	872	1,628	823	658	1,450	2,010	1,362	942
	研究用貸出	221	232	110	169	377	171	228	152	598	403	338	321
	計	799	614	649	453	1,249	1,799	1,051	810	2,048	2,413	1,700	1,263

配架場所		計(和漢書)				計(洋書)				合計			
		20年度	21年度	22年度	23年度	20年度	21年度	22年度	23年度	20年度	21年度	22年度	23年度
中央図書館	図書館配架	5,457	7,006	4,143	4,628	906	1,591	503	762	6,363	8,597	4,646	5,390
	研究用貸出	1,326	1,669	3,376	2,447	314	304	584	540	1,640	1,973	3,960	2,987
	計	6,783	8,675	7,519	7,075	1,220	1,895	1,087	1,302	8,003	10,570	8,606	8,377
桜ヶ丘分館	図書館配架	1,149	1,106	1,460	1,460	543	503	674	428	1,692	1,609	2,134	1,888
	研究用貸出	350	296	508	340	405	215	281	224	755	511	789	564
	計	1,499	1,402	1,968	1,800	948	718	955	652	2,447	2,120	2,923	2,452
水産学部分館	図書館配架	691	697	832	786	310	183	118	115	1,001	880	950	901
	研究用貸出	6	7	4	4	1	7	4	4	7	14	8	8
	計	697	704	836	790	311	190	122	119	1,008	894	958	909
計	図書館配架	7,297	8,809	6,435	6,874	1,759	2,277	1,295	1,305	9,056	11,086	7,730	8,179
	研究用貸出	1,682	1,972	3,888	2,791	720	526	869	768	2,402	2,498	4,757	3,559
	計	8,979	10,781	10,323	9,665	2,479	2,803	2,164	2,073	11,458	13,584	12,487	11,738

受入雑誌数 (冊)													
配架場所		購入(和漢書)				購入(洋書)				購入(計)			
		20年度	21年度	22年度	23年度	20年度	21年度	22年度	23年度	20年度	21年度	22年度	23年度
中央図書館	図書館配架	240	256	269	273	396	389	350	331	636	645	619	604
	研究用貸出	1,125	1,094	1,033	934	526	462	413	369	1,651	1,556	1,446	1,303
	計	1,365	1,350	1,302	1,207	922	851	763	700	2,287	2,201	2,065	1,907
桜ヶ丘分館	図書館配架	59	59	58	56	58	47	44	43	117	106	102	99
	研究用貸出	285	287	279	275	295	299	255	253	580	586	534	528
	計	344	346	337	331	353	346	299	296	697	692	636	627
水産学部分館	図書館配架	44	54	42	43	14	12	12	12	58	66	54	55
	研究用貸出	37	26	28	29	13	5	6	6	50	31	34	35
	計	81	80	70	72	27	17	18	18	108	97	88	90
計	図書館配架	343	369	369	372	468	448	406	386	811	817	775	758
	研究用貸出	1,447	1,407	1,340	1,238	834	766	674	628	2,281	2,173	2,014	1,866
	計	1,790	1,776	1,709	1,610	1,302	1,214	1,080	1,014	3,092	2,990	2,789	2,624

配架場所		寄贈(和漢書)				寄贈(洋書)				寄贈(計)			
		20年度	21年度	22年度	23年度	20年度	21年度	22年度	23年度	20年度	21年度	22年度	23年度
中央図書館	図書館配架	2,329	2,364	2,238	2,239	226	219	218	206	2,555	2,583	2,456	2,445
	研究用貸出	45	25	16	18	5	5	5	4	50	30	21	22
	計	2,374	2,389	2,254	2,257	231	224	223	210	2,605	2,613	2,477	2,467
桜ヶ丘分館	図書館配架	440	438	431	429	71	68	67	63	511	506	498	492
	研究用貸出	0	5	1	1	1	5	6	5	1	10	7	6
	計	440	443	432	430	72	73	73	68	512	516	505	498
水産学部分館	図書館配架	387	321	359	314	71	58	55	46	458	379	414	360
	研究用貸出	8	7	8	7	0	0	0	0	8	7	8	7
	計	395	328	367	321	71	58	55	46	466	386	422	367
計	図書館配架	3,156	3,123	3,028	2,982	368	345	340	315	3,524	3,468	3,368	3,297
	研究用貸出	53	37	25	26	6	10	11	9	59	47	36	35
	計	3,209	3,160	3,053	3,008	374	355	351	324	3,583	3,515	3,404	3,332

配架場所		計(和)				計(洋)				合計			
		20年度	21年度	22年度	23年度	20年度	21年度	22年度	23年度	20年度	21年度	22年度	23年度
中央図書館	図書館配架	2,569	2,620	2,507	2,512	622	608	568	537	3,191	3,228	3,075	3,049
	研究用貸出	1,170	1,119	1,049	952	531	467	418	373	1,701	1,586	1,467	1,325
	計	3,739	3,739	3,556	3,464	1,153	1,075	986	910	4,892	4,814	4,542	4,374
桜ヶ丘分館	図書館配架	499	497	489	485	129	115	111	106	628	612	600	591
	研究用貸出	285	292	280	276	296	304	261	258	581	596	541	534
	計	784	789	769	761	425	419	372	364	1,209	1,208	1,141	1,125
水産学部分館	図書館配架	431	375	401	357	85	70	67	58	516	445	468	415
	研究用貸出	45	33	36	36	13	5	6	6	58	38	42	42
	計	476	408	437	393	98	75	73	64	574	483	510	457
合計	図書館配架	3,499	3,492	3,397	3,354	836	793	746	701	4,335	4,285	4,143	4,055
	研究用貸出	1,500	1,444	1,365	1,264	840	776	685	637	2,340	2,220	2,050	1,901
	計	4,999	4,936	4,762	4,618	1,676	1,569	1,431	1,338	6,675	6,505	6,193	5,956

配架場所別蔵書数													(冊)
配架場所		図書(和漢書)				図書(洋書)				図書(合計)			
		20年度	21年度	22年度	23年度	20年度	21年度	22年度	23年度	20年度	21年度	22年度	23年度
中央図書館	図書館配架	398,021	429,321	440,451	447,939	159,218	173,050	178,193	180,053	557,239	602,371	618,644	627,992
	研究用貸出	346,700	312,342	300,205	293,309	116,962	102,435	97,383	96,045	463,662	414,777	397,588	389,354
	計	744,721	741,663	740,656	741,248	276,180	275,485	275,576	276,098	1,020,901	1,017,148	1,016,232	1,017,346
桜ヶ丘分館	図書館配架	69,620	71,714	74,232	74,670	58,642	59,840	61,430	62,790	128,262	131,554	135,662	137,460
	研究用貸出	35,429	34,737	33,913	32,991	21,050	20,570	19,390	18,054	56,479	55,307	53,303	51,045
	計	105,049	106,451	108,145	107,661	79,692	80,410	80,820	80,844	184,741	186,861	188,965	188,505
水産学部分館	図書館配架	19,672	21,273	21,882	23,076	5,998	6,693	6,880	7,095	25,670	27,966	28,762	30,171
	研究用貸出	27,366	26,469	26,171	25,767	8,034	7,529	7,435	7,339	35,400	33,998	33,606	33,106
	計	47,038	47,742	48,053	48,843	14,032	14,222	14,315	14,434	61,070	61,964	62,368	63,277
合計	図書館配架	487,313	522,308	536,565	545,685	223,858	239,583	246,503	249,938	711,171	761,891	783,068	795,623
	研究用貸出	409,495	373,548	360,289	352,067	146,046	130,534	124,208	121,438	555,541	504,082	484,497	473,505
	計	896,808	895,856	896,854	897,752	369,904	370,117	370,711	371,376	1,266,712	1,265,973	1,267,565	1,269,128

配架場所		雑誌総種類数(和漢書)				雑誌総種類数(洋書)				雑誌総種類数(合計)			
		20年度	21年度	22年度	23年度	20年度	21年度	22年度	23年度	20年度	21年度	22年度	23年度
中央図書館	図書館配架	15,156	16,052	16,480	16,713	6,555	7,101	7,221	7,289	21,711	23,153	23,701	24,002
	研究用貸出	6,072	5,811	5,720	5,689	2,731	2,563	2,526	2,492	8,803	8,374	8,246	8,181
	計	21,228	21,863	22,200	22,402	9,286	9,664	9,747	9,781	30,514	31,527	31,947	32,183
桜ヶ丘分館	図書館配架	3,509	3,551	3,578	3,584	2,171	2,220	2,252	2,277	5,680	5,771	5,830	5,861
	研究用貸出	761	730	682	688	927	878	822	792	1,688	1,608	1,504	1,480
	計	4,270	4,281	4,260	4,272	3,098	3,098	3,074	3,069	7,368	7,379	7,334	7,341
水産学部分館	図書館配架	2,153	2,199	2,311	2,379	1,018	1,043	1,126	1,179	3,171	3,242	3,437	3,558
	研究用貸出	310	302	346	310	122	103	102	94	432	405	448	404
	計	2,463	2,501	2,657	2,689	1,140	1,146	1,228	1,273	3,603	3,647	3,885	3,962
合計	図書館配架	20,818	21,802	22,369	22,676	9,744	10,364	10,599	10,745	30,562	32,166	32,968	33,421
	研究用貸出	7,143	6,843	6,748	6,687	3,780	3,544	3,450	3,378	10,923	10,387	10,198	10,065
	計	27,961	28,645	29,117	29,363	13,524	13,908	14,049	14,123	41,485	42,553	43,166	43,486

図書館サービス(図書館開館状況、入館者状況、貸出状況等)

【現状】

開館は3館とも学生の授業時間、試験期等を考慮した対応をしている。
 中央図書館は授業期には平日8:30~21:30、土日は10:00~18:00
 桜ヶ丘分館は授業期には平日8:30~21:00、土日は10:00~18:00
 水産学部分館は授業期には平日8:30~20:00、土は10:00~17:00(試験期18:00)
 また、授業のある祝日も開館している。

入館者数は、中央図書館は平成21年度、22年度には前年度に比し増加したものの、平成23年度には(セキュリティを強化した)入退館管理システム導入の影響もあり減少した。桜ヶ丘分館は平成22年度、23年度と増加した。水産学部分館は毎年度減少の傾向にある。

貸出状況は、中央図書館は平成22年度に若干減少したものの、人数、冊数ともに増加してきている。桜ヶ丘分館では平成23年4月に利用規則を改定し、貸出期間、貸出冊数を拡

大した結果、貸出冊数、人数ともに増加した。水産学部分館でも平成23年度は貸出冊数、人数ともに増加した。

【優れた点、特色ある点】

利用者アンケート等により、利用者の動向や要望を随時把握しながら、開館時間の延長や貸出条件等を検討、予算要求等を行い対応するようにしている

【改善を要する点、改善した点】

中央図書館、桜ヶ丘分館とも開館時間延長の要望があり、いずれもこれまで予算要求したが措置できなかった。今後も予算要求は続けていく必要がある。桜ヶ丘分館は24年度後期から平日30分の延長を予定している。

今後の利用者増はどの館も課題となっている。

【根拠資料】

■鹿児島大学附属図書館概要 2012
 (URL:<http://www.lib.kagoshima-u.ac.jp/magazine/outline/2012.html>)
 図書館サービス P.5～P.8
 ■開館状況 ■入館者状況 ■館外貸出状況

開館状況								
	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	日数	日数	日数	日数	日数	日数	日数	日数
中央図書館	321	318	324	315				
桜ヶ丘分館	346	342	342	343				
水産学部分館	295	291	293	284				
入館者状況								
	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数
中央図書館	426,117	428,912	451,307	424,888				
桜ヶ丘分館	120,596	119,363	120,576	125,510				
水産学部分館	30,115	28,756	26,095	25,736				
合計	576,828	577,031	597,978	576,134				
館外貸出状況								
	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	人数	冊数	人数	冊数	人数	冊数	人数	冊数
中央図書館	27,064	49,448	29,636	53,145	28,430	51,203	29,542	53,585
桜ヶ丘分館	10,203	16,763	10,241	16,495	10,835	17,419	11,729	20,232
水産学部分館	1,446	2,260	1,720	2,875	1,642	2,857	1,936	3,430
合計	38,713	68,471	41,597	72,515	40,907	71,479	43,207	77,247

財務(図書購入費、電子的資料費等)

【現状】

図書館の経費は、「図書館運営費」、「自己収入費」、「教育研究基盤経費」、「図書館資料費」及び「学内共通経費」として配分され、これらを「図書館管理運営費」と「図書購入費」に充てている。毎年 1%の予算減が行われており、図書館への配分予算が、年々減少していく中、図書購入費は減とせず、業務効率化による人件費削減、消耗品・光熱水費等の節約など、図書館維持管理費を節減することで対応している。

図書館資料費(図書館購入分)の内訳は下記のとおりで、この中には学生用図書の整備として学長裁量経費から平成 22 年度に 2,000 千円、平成 23 年度に 1,000 千円の追加配分、電子ジャーナル経費として間接経費から平成 20 年度～平成 23 年度に各年度 54,000 千円の追加配分、電子ジャーナル等バックファイルの整備として間接経費から平成 22 年度に 38,600 千円、平成 23 年度に 31,500 千円の追加配分が含まれており、電子ジャーナル等値上がり増額分も含め、図書購入費の安定的確保の努力を行っている。

図書館資料費(図書館購入分)

平成 20 年度：図書購入費 18,786 千円

雑誌・その他の消耗品的資料 30,654 千円

製本費 2,355 千円

電子的資料費 122,783 千円

合計 174,578 千円

平成 21 年度：図書購入費 21,709 千円

雑誌・その他の消耗品的資料 27,153 千円

製本費 3,484 千円

電子的資料費 91,926 千円

合計 144,272 千円

平成 22 年度：図書購入費 25,923 千円

雑誌・その他の消耗品的資料 29,240 千円

製本費 2,358 千円

電子的資料費 150,206 千円

合計 207,727 千円

平成 23 年度：図書購入費 35,339 千円

雑誌・その他の消耗品的資料 25,103 千円

製本費 1,157 千円

電子的資料費 136,493 千円

合計 198,092 千円

【優れた点、特色ある点】

図書館維持管理費の節減として光熱水費の節約と人件費の削減および業務委託の縮小を図り、図書購入費を維持している。

【改善を要する点、改善した点】

今後は施設の老朽化で補修経費の増が懸念される。また光熱費の単価の増も予想され維持管理費の節約がより一層厳しさを増すことから、今後は図書購入費の減も検討していかなければならないと思われる。しかし図書館サービスの低下は極力抑えなければならず、サービス維持と経費節減を両立する取り組みが必要である。

【根拠資料】

■鹿児島大学附属図書館概要 2012

(URL:<http://www.lib.kagoshima-u.ac.jp/magazine/outline/2012.html>)

図書館資料の収集 P.11～P.12

■図書館資料費

予算区分		図書購入費(和書)				図書購入費(洋書)				図書購入費(計)			
		20年度	21年度	22年度	23年度	20年度	21年度	22年度	23年度	20年度	21年度	22年度	23年度
中央図書館	図書館	8,274	10,497	11,399	18,290	1,810	1,435	884	5,145	10,084	11,932	12,283	23,435
	部局	7,689	11,171	10,961	8,940	3,689	3,839	7,079	4,930	11,378	15,010	18,040	13,870
	計	15,963	21,668	22,360	27,230	5,499	5,274	7,963	10,075	21,462	26,942	30,323	37,305
桜ヶ丘分館	図書館	6,574	7,550	9,764	8,845	569	529	1,436	697	7,143	8,079	11,200	9,542
	部局	941	651	1,158	1,580	1,046	600	656	1,076	1,987	1,251	1,814	2,656
	計	7,515	8,201	10,922	10,425	1,615	1,129	2,092	1,773	9,130	9,330	13,014	12,198
水産学部分館	図書館	734	1,224	1,819	1,603	825	474	621	759	1,559	1,698	2,440	2,362
	部局	10	14	3	6	0	21	0	0	10	35	3	6
	計	744	1,238	1,822	1,609	825	495	621	759	1,569	1,733	2,443	2,368
計	図書館	15,582	19,271	22,982	28,738	3,204	2,438	2,941	6,601	18,786	21,709	25,923	35,339
	部局	8,640	11,836	12,122	10,526	4,735	4,460	7,735	6,006	13,375	16,296	19,857	16,532
	計	24,222	31,107	35,104	39,264	7,939	6,898	10,676	12,607	32,161	38,005	45,780	51,871

予算区分		雑誌・その他の消耗品的資料(和書)				雑誌・その他の消耗品的資料(洋書)				雑誌・その他の消耗品的資料(計)			
		20年度	21年度	22年度	23年度	20年度	21年度	22年度	23年度	20年度	21年度	22年度	23年度
中央図書館	図書館	2,136	2,426	4,153	2,955	16,415	15,082	14,695	12,373	18,551	17,508	18,848	15,328
	部局	17,712	15,954	14,796	12,533	25,662	20,517	17,083	14,412	43,374	36,471	31,879	26,945
	計	19,848	18,380	18,949	15,488	42,077	35,599	31,778	26,785	61,925	53,979	50,727	42,273
桜ヶ丘分館	図書館	629	566	762	625	8,708	7,006	8,058	7,677	9,337	7,572	8,820	8,302
	部局	7,321	7,351	7,187	6,950	26,713	28,982	21,766	21,131	34,034	36,333	28,953	28,081
	計	7,950	7,917	7,949	7,575	35,421	35,988	29,824	28,808	43,371	43,905	37,773	36,383
水産学部分館	図書館	589	487	391	424	2,177	1,586	1,181	1,049	2,766	2,073	1,572	1,473
	部局	437	337	447	400	790	415	333	369	1,227	752	780	769
	計	1,026	824	838	824	2,967	2,001	1,514	1,418	3,993	2,825	2,352	2,242
計	図書館	3,354	3,479	5,306	4,004	27,300	23,674	23,934	21,099	30,654	27,153	29,240	25,103
	部局	25,470	23,642	22,430	19,883	53,165	49,914	39,182	35,912	78,635	73,556	61,612	55,795
	計	28,824	27,121	27,736	23,887	80,465	73,588	63,116	57,011	109,289	100,709	90,852	80,898

予算区分		製本費(和書)				製本費(洋書)				製本費(計)			
		20年度	21年度	22年度	23年度	20年度	21年度	22年度	23年度	20年度	21年度	22年度	23年度
中央図書館	図書館	49	129	56	17	247	1,799	360	345	296	1,928	416	362
	部局	75	66	88	64	96	20	26	13	171	86	114	77
	計	124	195	144	81	343	1,819	386	358	467	2,014	530	439
桜ヶ丘分館	図書館	174	804	600	123	746	143	960	410	920	947	1,560	533
	部局	425	337	165	242	797	468	436	363	1,222	805	601	605
	計	599	1,141	765	365	1,543	611	1,396	773	2,142	1,752	2,161	1,138
水産学部分館	図書館	757	414	305	169	382	195	77	94	1,139	609	382	263
	部局	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	757	414	305	169	382	195	77	94	1,139	609	382	263
計	図書館	980	1,347	961	309	1,375	2,137	1,397	849	2,355	3,484	2,358	1,158
	部局	500	403	253	306	893	488	462	376	1,393	891	715	682
	計	1,480	1,750	1,214	615	2,268	2,625	1,859	1,225	3,748	4,375	3,073	1,840

予算区分		電子的資料費(和書)				電子的資料費(洋書)				電子的資料費(計)			
		20年度	21年度	22年度	23年度	20年度	21年度	22年度	23年度	20年度	21年度	22年度	23年度
中央図書館	図書館	2,615	2,614	1,543	1,513	120,168	89,312	148,663	134,980	122,783	91,926	150,206	136,493
	部局	0	0	0	0	4,404	2,779	3,742	4,165	4,404	2,779	3,742	4,165
	計	2,615	2,614	1,543	1,513	124,572	92,091	152,405	139,145	127,187	94,705	153,948	140,658
桜ヶ丘分館	図書館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	部局	0	0	0	0	471	502	2,152	2,134	471	502	2,152	2,134
	計	0	0	0	0	471	502	2,152	2,134	471	502	2,152	2,134
水産学部分館	図書館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	部局	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	図書館	2,615	2,614	1,543	1,513	120,168	89,312	148,663	134,980	122,783	91,926	150,206	136,493
	部局	0	0	0	0	4,875	3,281	5,894	6,299	4,875	3,281	5,894	6,299
	計	2,615	2,614	1,543	1,513	125,043	92,593	154,557	141,279	127,658	95,207	156,100	142,792

予算区分		計(和書)				計(洋書)				合計			
		20年度	21年度	22年度	23年度	20年度	21年度	22年度	23年度	20年度	21年度	22年度	23年度
中央図書館	図書館	13,074	15,666	17,151	22,775	138,640	107,628	164,602	152,843	151,714	123,294	181,753	175,618
	部局	25,476	27,191	25,845	21,537	33,851	27,155	27,930	23,520	59,327	54,346	53,775	45,057
	計	38,550	42,857	42,996	44,312	172,491	134,783	192,532	176,363	211,041	177,640	235,528	220,675
桜ヶ丘分館	図書館	7,377	8,920	11,126	9,593	10,023	7,678	10,454	8,784	17,400	16,598	21,580	18,377
	部局	8,687	8,339	8,510	8,772	29,027	30,552	25,010	24,704	37,714	38,891	33,520	33,476
	計	16,064	17,259	19,636	18,365	39,050	38,230	35,464	33,488	55,114	55,489	55,100	51,853
水産学部分館	図書館	2,080	2,125	2,515	2,196	3,384	2,255	1,879	1,902	5,464	4,380	4,394	4,098
	部局	447	351	450	406	790	436	333	369	1,237	787	783	775
	計	2,527	2,476	2,965	2,602	4,174	2,691	2,212	2,271	6,701	5,167	5,177	4,873
合計	図書館	22,531	26,711	30,792	34,564	152,047	117,561	176,935	163,529	174,578	144,272	207,727	198,093
	部局	34,610	35,881	34,805	30,715	63,668	58,143	53,273	48,593	98,278	94,024	88,078	79,308
	計	57,141	62,592	65,597	65,279	215,715	175,704	230,208	212,122	272,856	238,296	295,805	277,401

(2) 改善のためのシステムに関する事項

教員、教育支援者及び教育補助者、事務職員等に対する研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われていること。

職員力・組織力向上に向けた取組(情報共有化、内部報告会・研修会、タスクフォース等)

【現状】

職員力・組織力向上に向けた取組として、図書館職員の意識の共有化と業務効率を図るために、図書館職員全員がアクセスできる情報共有サイトを独自で立ち上げ、会議資料、利用統計、業務上の課題等を掲載し情報の共有化とともに業務改善を実施した。また、これまでの文書による業務報告に加え、月初めに行われる係長会議及び研修報告会において口頭発表及び意見交換を実施し、研修成果の共有化を促進するようにした。

また、平成 22 年度からは附属図書館の諸課題を係横断的に検討・実施するため以下のタスクフォースを設置し、諸課題に対して組織的な取り組みを行った。

【危機管理タスクフォース】

これまでの事例等を分析し、附属図書館危機管理マニュアルを作成し、図書館職員及び学生アルバイト職員に説明配布した。

【図書館備付図書選定タスクフォース】

図書館へ備え付ける図書の調査、選定、購入及び整理に関する規則・方策等を検討し、学生希望図書申込等は周知が不足していたことから、各学部にもポスターを掲示し、図書貸出時にチラシの挟み込みをして PR を図り、学生の希望を少しでも反映できるようにした。

また、鹿児島大学附属図書館資料収集及び選定に関する実務要項の見直しを行い、併せて図書館職員選定図書に関する申合せを制定して、より具体的な選書基準を定め、同時に教員インタビューを実施し職員のインタビュースキル・プレゼン力の向上等、職員の能力向上や教員からの資料整備についての情報収集も行った。

【アラート&デリバリーシステム検討タスクフォース】

大学の教育研究に直結する学術情報を早期に入手し、教員へ提供サービスする方法について、大学の重点研究のメンバーである若手研究キーパーソン 3 名に教員インタビューを実施し、今後の方向性や課題を分析した。

【附属図書館ホームページ・リニューアルタスクフォース】

利用者の興味・関心を引き、親近感、使い勝手の向上等を念頭にホームページのコンテンツや内容を検討し、平成 24 年 3 月にリニューアルした。

【イベントタスクフォース】

オープンキャンパスで図書館ウォークラリーや図書館ツアー、コーナー展示（大学の歴史、シラバス、大学生活、教員著作、貴重書）を行い、約 1,000 名の参加者があった。また平成 23 年 11 月には「かごしま読書フェス@鹿大」を開催し、個人がお薦めの本を持ち寄りグループ内で紹介したり、1 冊の本について語り合うカジュアルな読書会や、お薦め本プレゼンバトル「ビブリオバトル」を行い、約 70 名の参加者があった。同じく 11 月には中央図書館ギャラリーアトリウムにおいて、所蔵資料の中から、明治の浮世絵師と西南戦争の接点を示す「西南戦争錦絵」を中心にした「明治の浮世絵師と西南戦争」展を開催し、約 400 名の来場者があった。

【優れた点、特色ある点】

情報共有サイトの立ち上げや研修成果の意見交換等により、組織目標や問題意識の共有化が図られ、係横断的なタスクフォースによる活動で、職員間の業務上のコミュニケーションアップや業務改善に繋がっている。

【改善を要する点、改善した点】

図書館職員の能力・意識向上を図るため、積極的に研修等に参加し、最新情報を収集して、さらに優れた図書館サービス提供に取り組む必要がある。またタスクフォースで扱う課題は、短期的なものの中長期的なもの、単発的なものと継続的なもの等を整理して、職員がさらに積極的・機動的に取り組めるようにする必要がある。

【根拠資料】

■鹿兒島大学附属図書館概要 2012

(URL:<http://www.lib.kagoshima-u.ac.jp/magazine/outline/2012.html>)

電子図書館への取り組み(附属図書館ホームページ)P.20、貴重書公開事業 P.24～P.26

■鹿兒島大学ホームページトピックス (2011.11.17)

(URL: <http://www.kagoshima-u.ac.jp/topics/2011/12/post-188.html>)



(出典 鹿兒島大学ホームページトピックス 2011.11.17)

(3) その他管理運営に関する事項

安全管理体制強化と事故防止対策を確立していること。

安全対策の強化(危機管理マニュアル策定、防災訓練の実施、館内巡視等)

【現状】

平成 22 年度に立ち上げた危機管理タスクフォースによりマニュアルの基礎を作成し、これを基に平成 23 年度に附属図書館危機管理マニュアルを作成した。

また、防災訓練に関しては年に 1 回、キャンパス合同で実施されている訓練に参加している。

平成 22 年度に入退館管理システムの設置と防犯カメラの増設を行い、館内の安全管理体制の強化を図った。さらに利用者の安全確保のため職員による館内巡視を実施している。

【優れた点、特色ある点】

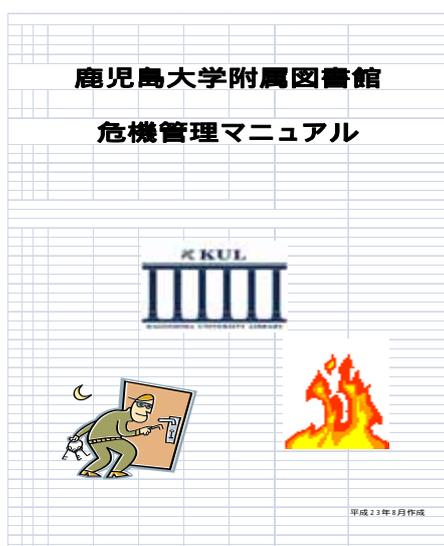
平成 23 年度に作成した附属図書館危機管理マニュアルは、事項毎の対応がわかりやすいよう工夫し作成している。入退館システム導入により入館時に学生証および利用証を認識させてゲートを通過させることで利用者の安全確保と防犯対策に効果がある。

【改善を要する点、改善した点】

防災訓練は、平成 20 年度以降キャンパス合同の訓練しか実施していないので、今後は数年に 1 度は図書館独自の訓練を実施する必要がある。

【根拠資料】

■鹿兒島大学附属図書館危機管理マニュアル(抜粋)



目次	
1. 危機管理マニュアルの目的	1
2. 危機管理対策の内容	
人的トラブル	
1. 迷惑行為(携帯電話、飲食、飲酒、喫煙など)	2
2. 利用者のトラブル(口論、喧嘩など)	3
3. 資料・資料・備品の汚損	4
4. 不審者の入館	5
犯罪	
1. 盗難・無断持ち出し(資料・備品・利用者の私物)	6
2. 窃盗を伴った入館	7
3. ストーカー・痴漢・盗撮等発生	8
病気・事故	
1. 急病人、けが人の発生	9
自然災害等	
1. 地震	10
2. 火災	12
3. 台風(風水害)	13
設備の故障等	
1. 停電	14
2. エレベーター故障	15
3. ガス漏れ	16
4. システム障害	17
個人情報関連	
1. 利用者等の個人情報流出	18
その他、こんな事が起こったら	19
3. 災害時(地震・火災等)の対応体制と業務	22
4. 緊急連絡網	24
5. 閉館規則等	25
6. 防災設備設置場所(消火器・消火栓の使用法)	36

(出典 鹿兒島大学附属図書館危機管理マニュアル)

総括・評価

1 教育領域の総合評価

評価水準

- 5 特に優れている 4 優れている 3 水準に達している
2 改善の余地がある 1 改善を要する

学生の「学士力」育成のための図書が学長裁量経費により購入され、教育センターと連携した図書館情報リテラシー支援室を新入生の8-9割が利用しているなど、図書館の機能を利用した教育支援が図書館員によって積極的に行われている。今後は、その質の向上に向けた改善の取り組み（例えば、授業支援の講義内容改善、ピアサポートの規模拡大、グループ学習室の有効活用など）が必要とされる。

2 研究領域の総合評価

評価水準

- 5 特に優れている 4 優れている 3 水準に達している
2 改善の余地がある 1 改善を要する

電子ジャーナル等のバックファイルの購入にあたり財源の確保に務めており、図書館としての研究基盤の整備に努めている。また、教員インタビューを行うなど、研究活動への支援体制整備にもつとめているが、どのような内容の整備に反映したかが分かりにくい。今後の継続した改善が望まれる。

3 社会貢献領域の総合評価

評価水準

- 5 特に優れている 4 優れている 3 水準に達している
2 改善の余地がある 1 改善を要する

鹿児島大学リポジトリの体制が整いつつあり、鹿児島県学術共同リポジトリ（KARN）の整備に主導的な役割を果たしており、地域への情報発信に貢献しようとしている点が高く評価される。今後は更なる広報活動の充実に期待する。

4 管理運営領域の総合評価

評価水準

- 5 特に優れている 4 優れている 3 水準に達している
2 改善の余地がある 1 改善を要する

限られた予算の中で、節約を図りながら、図書館としての機能を維持しつつも、蔵書等

の充実につとめているのは評価に値する。特に、タスクフォースより図書館の問題点の解決に務めていることは図書館運営のあるべき姿である。今後は、図書館員の創意工夫が自由な意見となって図書館の改善につながることを期待したい。

根拠資料(規則関係)

鹿児島大学附属図書館情報リテラシー支援室設置要項

平成20年4月1日

附属図書館長制定

(設置)

第1 鹿児島大学の教育・研究支援の観点から情報リテラシー教育を支援するために、附属図書館に情報リテラシー支援室（以下「支援室」という。）を置く。

(組織)

第2 支援室は次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 附属図書館長
- (2) 情報サービス課長
- (3) 情報サービス課長代理
- (4) 情報サービス課情報調査支援係長
- (5) 情報管理課及び情報サービス課の職員のうち、利用指導及び利用相談に応じることのできる職員

(室長等)

第3 室長は附属図書館長をもって充てる。

2 室長補佐は学術情報部情報サービス課長をもって充てる。

3 主査は学術情報部情報サービス課情報サービス課長代理及び情報調査支援係長をもって充てる。

(業務)

第4 支援室は、次の事項を行う。

- (1) 情報リテラシー教育支援活動の企画、立案及び実施に関すること
- (2) その他室長が必要と認めたこと

(事務)

第5 支援室の事務は、学術情報部情報サービス課において処理する。

(その他)

第6 この規則に定めるもののほか、支援室の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成20年4月1日から実施する。

附 則

この要項は、平成20年7月1日から実施する。

附 則

この要項は、平成24年4月26日から実施し、平成24年4月1日から適用する。

鹿児島大学附属図書館学生モニター内規

(趣旨)

第1 この内規は、鹿児島大学附属図書館学生モニター（以下「学生モニター」という。）に関し必要事項を定める。

(組織)

第2 学生モニターは、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 各学部から推薦された学生
- (2) その他館長が必要と認めた学生

2 前項の者の任期は1年とする。

(任務)

第3 学生モニターは、附属図書館の実施する利用者サービスに関し、次に掲げる事項に対するアンケートに回答し、意見を述べる。

- (1) 図書館資料に関すること
- (2) 図書館の作成資料に関すること
- (3) 附属図書館ホームページに関すること
- (4) 図書館職員の対応に関すること
- (5) 設備に関すること
- (6) その他利用者サービスに関すること

2 附属図書館長の主催する学生モニター懇談会に参加すること。

(事務)

第4 事務は、学術情報部情報サービス課において処理する。

(雑則)

第5 この内規に定めるもののほか、学生モニターの運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この内規は、平成19年5月18日から施行する。

鹿児島大学リポジトリに関する要項

平成23年7月21日

学長裁定

(趣旨)

第1 この要項は、鹿児島大学リポジトリ（以下「リポジトリ」という。）に関し必要な事項を定める。

(定義)

第2 この要項において「リポジトリ」とは、鹿児島大学（以下「本学」という。）において作成された教育研究の成果物（以下「成果物」という。）を電子的な形態によって網羅的に蓄積・保存し、学内外に無償で提供することにより、教育研究活動の発展に寄与するとともに、社会に対する説明責任を果たすためのシステムをいう。

(管理運用)

第3 リポジトリの管理及び運用は附属図書館において行うものとする。

(登録対象者)

第4 リポジトリに成果物を登録できる者は、次に掲げる者とする。

- (1) 本学に在籍し、又は在籍したことがある役員及び教職員
- (2) 本学大学院研究科に在籍し、又は在籍したことがある大学院生及び研究生
- (3) その他鹿児島大学附属図書館運営委員会（以下「運営委員会」という。）が適当と認めた者

(登録範囲)

第5 リポジトリに登録する成果物は、本学において作成されたものであって、次に掲げる要件を満たすものとする。

- (1) 成果物の種別として以下のいずれかに該当するもの
 - ① 学術論文（学術雑誌掲載論文、プレプリント、学会発表資料等）
 - ② 学位論文（博士論文及び修士論文）
 - ③ 教育資料（講義資料、講演記録、プレゼンテーション資料等）
 - ④ 部局等が作成した紀要、報告書等
 - ⑤ 単行図書（単著の全部及び共著等の際の登録対象者が執筆を担当した部分）
 - ⑥ 附属図書館が収集したコレクション類
 - ⑦ その他運営委員会が適当と認めたもの
- (2) 公開に当たって、法令上、社会通念上及び情報セキュリティ上問題が生じないもの

(著作権許諾の手続)

第6 リポジトリへ成果物を登録しようとする者（以下「登録者」という。）は、著作権が登録者にある場合は、第7に定める登録をもって、著作権の一部（複製権及び公衆送信権）を本学に許諾したものとみなす。この場合において、登録者以外の者が、登録する成果物に係る著作権を有している場合は、登録者はあらかじめ当該成果物に係る他の著作権者の許諾を得なければならない。

- 2 部局等が作成した紀要、報告書等については、編集・発行機関は刊行の要件として著者から著作権の譲渡を受けるか、著作権の一部（複製権及び公衆送信権）の許諾を得て、リポジトリで公開することを投稿規程等に明記するものとする。
- 3 学術雑誌掲載論文など著作権が学外の出版者等へ譲渡されている場合は、その著作権者の方針に則り、

附属図書館及び登録者が協議の上、必要な手続きを行うものとする。

(登録方法)

第7 登録者は、原則として鹿児島大学リポジトリ登録許諾書（別記様式第1-1号又は別記様式第1-2号）及び成果物の電子ファイルを附属図書館に提出するものとする。ただし、電子ファイルがない場合は、冊子体を提出するものとする。

2 前項の規定にかかわらず、次の各号に掲げる成果物の提出方法は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 紀要 当該紀要の編集委員会が、当該紀要の発行後に提出する。
- (2) 学位論文（博士） 学位申請者は、学位審査申請時に鹿児島大学リポジトリ登録許諾について（博士論文）（別記様式第2-1号又は別記様式第2-2号）及び当該学位論文を提出するものとする。
- (3) 学位論文（修士） 登録者は、随時鹿児島大学リポジトリ登録許諾書（修士論文）（別記様式第3-1号又は別記様式第3-2号）及び当該学位論文を提出するものとする。
- (4) 学内機関発行の報告書 当該報告書の発行機関が、当該報告書の発行後に提出する。
- (5) 科学研究費研究成果報告書 研究国際部が、当該報告書の集約後に提出する。

(登録及び公開)

第8 附属図書館は、登録者から提供された成果物について、著作権その他の登録及び公開に係る支障がないことを確認した上でリポジトリに登録及び公開するものとする。

2 公開の範囲は、原則として一般公開とする。ただし、登録者の事情等によりやむを得ないと認められる場合は、公開時期等を指定することができる。

3 メタデータ（タイトル、著者等の目録情報）については、登録時からすべて一般公開とする。

(登録の削除)

第9 附属図書館は、リポジトリに登録された成果物が次の各号のいずれかに該当する場合は、運営委員会の議を経て、登録された成果物の一部又は全部を削除することができる。

- (1) 登録した者から削除の申請があった場合
- (2) 他者に帰属する著作権、所有権等を侵害する場合又は社会的な観点から著しく不適切な内容を含むと認められる場合

(利用条件)

第10 リポジトリに登録された成果物を利用しようとする者は、その利用に際して次に掲げる条件を遵守しなければならない。

- (1) 著作権法（昭和45年法律第48号）に定める条件
- (2) 利用しようとする成果物が、リポジトリで公開する以前に出版者等により出版・公表されている場合であって、投稿規程、出版契約等により当該出版者等が利用に係る条件を定めている場合は、その条件（免責事項）

第11 本学は、リポジトリに登録された成果物の登録及び公開又は利用によって生じたいかなる損害についても、一切その責任を負わないものとする。

(その他)

第12 この要項に定めるもののほか、リポジトリに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成23年7月21日から実施する。

附 則

この要項は、平成24年5月15日から実施し、平成24年4月19日から適用する。

鹿児島県学術共同リポジトリ運用指針

平成 23 年 9 月 26 日

大学地域コンソーシアム鹿児島

地域共同リポジトリ事業部会

(趣旨)

第 1 この指針は、鹿児島県学術共同リポジトリ（以下「共同リポジトリ」という。）に関し必要な事項を定める。

(定義)

第 2 この指針において「共同リポジトリ」とは、別表に掲げる鹿児島県内の高等教育機関（以下「各機関」という。）において作成された教育研究の成果物（以下「成果物」という。）を電子的な形態によって蓄積・保存し、国内外に無償で提供することにより、教育研究活動の発展に寄与するとともに、社会に対する説明責任を果たすためのシステムをいう。

(英語名称及び愛称)

第 3 共同リポジトリの英語名称は Kagoshima Academic Repository Network、愛称は KARN とする。

(管理運用)

第 4 共同リポジトリは、鹿児島大学に設置する共同リポジトリシステム上で運用し、システム管理は鹿児島大学附属図書館において行うものとする。

2 管理運用責任者は、事業部会長とする。

(登録対象者)

第 5 共同リポジトリに成果物を登録できる者は、次に掲げるものとする。

- (1) 各機関に在籍し、又は在籍したことがある教職員
- (2) 各機関に在籍し、又は在籍したことがある大学院生及び研究生
- (3) その他各機関が認めた者

(登録可能な成果物)

第 6 共同リポジトリに登録する成果物は、各機関において作成されたものであって、次に掲げる要件を満たすものとする。

- (1) 成果物の種別として以下のいずれかに該当するもの
 - ① 登録しようとする者（以下「登録者」という。）が、単独又は他と共同で作成した成果物
 - ② 各機関による成果物（各機関の発行物を含む。）
 - ③ 各機関に関連する機関・団体・個人等による成果物であって、各機関の責任において登録し、公開することが適切であると認められる成果物
 - ④ その他各機関が認めた成果物
- (2) 公開に当たって、各機関の規定上並びに法令上、社会通念上及び情報セキュリティ上問題が生じないもの

(登録及び公開)

第 7 各機関は、登録者から提供された成果物について、著作権その他の登録及び公開に係る支障がないことを確認した上で共同リポジトリに登録及び公開するものとする。

2 各機関が登録する成果物については、当該成果物の著作者が責任を負うものとする。

(登録の削除)

第8 各機関は、自機関によって登録された成果物の一部又は全部を各機関の責任において削除することができる。

(利用条件)

第9 共同リポジトリに登録された成果物を利用しようとする者は、その利用に際して次に掲げる条件を遵守しなければならない。

(1) 著作権法(昭和45年法律第48号)に定める条件

(2) 利用しようとする成果物が、共同リポジトリで公開する以前に出版者等により出版・公表されている場合であって、投稿規程、出版契約等により当該出版者等が利用に係る条件を定めている場合は、その条件

(データ保全)

第10 共同リポジトリに登録する各機関は、電子化された成果物のオリジナルデータを自身で保全するものとし、データ保全の最終責任は各機関が負うものとする。

2 鹿児島大学附属図書館は、共同リポジトリに登録されたデータの保全に最大限努めるものとする。

(免責事項)

第11 各機関、大学地域コンソーシアム鹿児島及び地域共同リポジトリ事業部会は、共同リポジトリに登録された成果物を利用することによって発生した利用者のいかなる損害についても、一切責任を負わないものとする。

(その他)

第12 共同リポジトリに登録された成果物についての問い合わせには、当該成果物を登録した各機関が責任を持って対応するものとする。

2 本指針に定めるもののほか、必要な事項は別途定めるものとする。

附 則

この指針は、平成23年 9月26日から実施する。

鹿児島大学附属図書館展示スペース利用要項

平成 21 年 10 月 15 日

附属図書館長 裁定

(趣旨)

第 1 この要項は、鹿児島大学附属図書館（以下「図書館」という。）において、施設の一部を展示スペースとして利用することに関し必要な事項を定めるものとする。

(利用目的)

第 2 展示スペースは、文化的及び学術的な展示のために利用できるものとする。

(展示場所)

第 3 展示スペースは、中央図書館においては附属図書館長、桜ヶ丘分館及び水産学部分館においては各分館長（以下「館長等」という。）が指定する場所とする。

(利用者の範囲)

第 4 展示スペースを利用できる者は、次に掲げる者とする。

- (1) 本学の教職員
- (2) 本学の名誉教授及び退職者
- (3) 本学の学友会に所属する団体
- (4) 本学の教職員の紹介する学外者
- (5) その他館長等の認めた者

(利用手続)

第 5 展示スペースの利用を希望する者（以下「展示スペース利用希望者」という。）は、展示スペースの利用を希望する日の原則として 4 週間前までに、鹿児島大学附属図書館展示スペース利用申込書（別記様式。以下「申込書」という。）を館長等に提出し、許可を受けなければならない。

(展示許可の優先順位)

第 6 展示スペース利用希望者が多数の場合は、第 4 各号に掲げた順に優先して許可を行う。

(展示スペース利用期間等)

第 7 展示スペースの利用期間は、原則として 4 週間以内とする。ただし、4 週ンを越える期間を希望する場合は、申込書に理由を明記し、館長等の許可を受けなければならない。

2 展示スペースにおける展示物の公開時間は、図書館開館日の午前 10 時から午後 5 時までとする。

(遵守事項)

第 8 展示スペースの利用許可を受けた者（以下「利用者」という。）は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 展示スペースを展示目的以外の用途に利用しないこと。
- (2) 公序良俗に反しない作品等を展示すること。
- (3) 利用者以外の者に、展示スペースの全部又は一部を転貸しないこと。
- (4) 利用者の過失によって図書館の備品、設備等に破損又は紛失があった場合は、現物又は代金をもって、その損害を弁償すること。
- (5) 展示スペースの利用に際しやむを得ない事情が生じた場合は、利用日時若しくは利用条件の変更又は利用中止の指示に従うこと。
- (6) 図書館の施設内に危険物を持ち込まないこと。
- (7) 展示物の搬入、設置、撤去及び管理は、利用者が行うこと。

- (8) 営利目的の活動又はこれに類する活動は行わないこと。
- (9) 図書館利用者の迷惑につながる行為は行わないこと。
- (10) 展示スペースの利用終了後は、速やかに原状回復を行うこと。
- (11) その他展示スペースの利用に際しては、図書館職員の指示に従うこと。

(利用許可の取消し)

第9 館長等は、利用者が次の各号のいずれかに該当する場合は、利用許可を取り消し又は利用を停止することができる。

- (1) 第8に掲げる遵守事項に違反した場合
- (2) 申込書に虚偽の記載があった場合

(免責事項)

第10 展示物の管理は、利用者の責任において行い、図書館は展示物の損害、盗難、紛失、破損等について、一切の責任を負わない。

附 則

この要項は、平成21年10月15日から実施する。